

研究活動報告(アルファベット順)

2017年(1月1日から12月31日)における専任教員の研究活動歴である。ここに掲載されているものは、大阪女学院大学・短期大学研究活動委員会の依頼に応じて、各専任教員が自己申請したものに限定されていることを付記する。研究活動歴は以下のように分類される。

氏名, (専門領域), I.著訳書, II.学術論文, III.その他の著作(研究ノート, 報告書, 雑誌, 新聞, ニュースレター等), IV.学会発表, V.その他の発表(シンポジウム, 講演, 放送等), VI.学会および公的な機関の委員, VII.科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

青木 慶(あおき・けい) [経営学(マーケティング)]

I. 著訳書

- (1) 「CSRとマーケティング」 國部克彦編著『CSRの基礎』中央経済社 (pp.41-58), 2017年, 共著
- (2) 『アイデア共創の質を高めるしくみ』クロスメディア・パブリッシング, 2017年, 単著
- (3) 『カフェオーナー体験から学ぶマーケティング』加藤映子編Apple iBook, 2017年8月, 共編著

II. 学術論文

- (1) 「顧客と共創するブランドコミュニケーション—ブランドアドボケイツの役割について—」, 『公益財団法人吉田秀雄記念事業財団 平成28年度第50次助成研究集』, 2017年6月, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「積極的に口コミする消費者心理のなぜ? 企業と共創する『ブランドアドボケイト』とは?」, 『100万社のマーケティング』 宣伝会議2017年12月号, 2017年11月, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「顧客と共創するブランドコミュニケーション—ブランドアドボケイツの役割について—」, 日本広告学会クリエイティブフォーラム2017, 於: 青山学院大学, 開催日2017年5月13日
- (2) 「共創プラットフォームから派生するブランドアドボケイト—Nike+ の事例より—」, 日本マーケティング学会マーケティングカンファレンス2017, 於: 早稲田大学, 開催日2017年10月22日
- (3) 「ブランドコミュニケーションにおけるC to Cコミュニケーションの果たす役割—トリプルメディアの観点からの考察—」, 日本広告学会第48回全国大会, 於: 立正大学, 開催日2017年10月29日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「CSRとマーケティング」, 神戸CSR研究会 CSRの基礎シンポジウム, 於: エートス法律事務所, 2017年5月18日

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 共創活動が創出する社会的価値—消費者参加型プラットフォームの新たな側面— 独立行政法人日本学術振興会「平成29年度科学研究費助成事業(基盤研究C)」2017年4月から2019年3月

Cornwell, Steve(コーンウェル・ステイブ) [Curriculum Design, TESOL, Education]

I. 著訳書

- (1) *Osaka Jogakuin*. [multi-touch book]. Osaka Jogakuin Press. August 2017 joint work.

II. 学術論文

- (1) Empowering Low-English-Proficiency Students: A Fresh Approach. OJU Kiyo, vol 13, March 2017, joint work.

IV. 学会発表

- (1) Shaping the Classroom, Shaping the World in a Global Age, JALT, Tsukuba, November 18, 2017
- (2) Interdisciplinarity for Language Educators, JALT, Tsukuba, November 18, 2017
- (3) An Empirically Research-Based Vocabulary Program, JALT, Tsukuba, November 19, 2017

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) International Academic Forum (IAFOR) President of Academic Governing Board, January 1, 2017 to present
- (2) Japan Association for Language Teaching (JALT) Editorial Advisory Board, JALT Journal, continuing from last year-1/1/2017 through 12/31/2017 and into present
- (3) Japan Association for Language Teaching (JALT) Editorial Advisory Board, The Language Teacher, continuing from last year-1/1/2017 through 12/31/2017 and into present

夫 明美(ふ・あけみ) [英語教育, 第二言語習得]

II. 学術論文

- (1) 「Cultural Understanding through a University Student Textbook Analysis Project」*Osaka JALT Journal*, 4 2017. May 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「教員免許更新講習報告書」『教員養成センターニュースレター』29号, 2018年1月 単著
- (2) 「授業の玉手箱」『教員養成センターニュースレター』29号, 2018年1月 単著

IV. 学会発表

- (1) 「Improving Material Analysis Skills and Intercultural Competence through a Textbook Analysis Project」, *Jalt Back to School*, 於: 大阪女学院大学, 2017年5月27日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国立国語研究所 「基本動詞ハンドブック」見出し執筆およびスクリプト作成担当 2011年-現在

福島 知津子(ふくしま・ちずこ) [英語教育学]

IV. 学会発表

- (1) 「高等学校レベルの学習者による英作文における主語選択とその文法性に関する研究」日本教科教育学会, 於: 北海道教育大学, 2017年9月9日.

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 全国英語教育学会 紀要査読委員 2016年4月-現在にいたる

幡新 大実(はたしん・おおみ) [英米法, 人権, 国際関係論]

II. 学術論文

- (1) “Two contrasting processes of the mythologisation of constitutions in English and Japanese”『大阪女学院大学紀要』第13号2017年

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 巻頭言「Look South: オーストラリアの挑戦から学ぶ」『大阪女学院大学国際共生研究所通信』第11号
- (2) 「再考, 国際共生」『大阪女学院大学国際共生研究所通信』第11号

IV. 学会発表

- (1) “Mutinies in Manchuria 1928-1931: Interface between Domestic and International Criminal Laws”, International Association of Japan Studies, Waseda University, Tokyo, 2 December 2017

平野 真理子(ひらの・まりこ)〔アメリカ文学, 日系アメリカ文化・歴史・文化・コミュニティ研究〕

II. 学術論文

- (1) 「hapaとしてのアイデンティティ探求－ハワイの日系三世ユウレジアン作家Susan Nunesの作品を中心に－」『神戸英米論叢』第30号, 2017年2月, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「Susan Nunesの短編小説におけるハワイの日系アメリカ人コミュニティ」アジア系アメリカ文学研究会AALA NEWS No.50, 2017年6月
- (2) 「“hapa”(ユウレイジャン)としてのアイデンティティ探求」第89回大会Proceedings 日本英文学会, 2017年9月, 単著

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 模擬授業「求められる英語力とは？」和歌山県立橋本高校, 2017年9月1日

Johnston, Scott (ジョンストン・スコット)〔International Education, intercultural communication〕

II. 学術論文

- (1) “Empowering Low-English-Proficiency Students: A Fresh Approach.” Osaka Jogakuin University Kiyou 13, March 3, 2017. (Co-written with William Cline, Steve Cornwell, Chizuko Fukushima, Mariko Hirano, Stuart McLean, Yukiko Takezawa, Kazuko Tojo)
- (2) “Educational Internship: Community Connection with a Local School.” Association of Christian Universities and Colleges in Asia (ACUCA) Management Conference 2017. In “Exploring the Relationship of Religion, Culture, and Peace in Christian Higher Education,” pp.59-67. 共著

加藤 映子(かとう・えいこ)〔言語習得, ICTを活用した教育〕

I. 著訳書

- (1) Chapter 9 ‘Early literacy Instruction in Japan’, “The Routledge International Handbook of Early Literacy Education” (Snow, McBride, Grover, Kucirkova, eds), Routledge, pp.210-222, 2017年2月, 単著
- (2) 青木慶著「カフェオーナー体験から学ぶマーケティング」の編集 Apple iTunes Store, 2017年8月

II. 学術論文

- (1) Human Development Based on Christianity at Osaka Jogakuin University & Osaka Jogakuin College: The University where “My Story” Begins. 2016 AUCA Biennial Conference & 21st General Assembly, In “Local Spiritualities and Everydayness: Promoting Religious Conversation in Christian Higher Education”, pp.91-101. 単著
- (2) Educational Internship: Community Connection with Local School. Association of Christian Universities and Colleges in Asia (ACUCA) Management Conference 2017. In “Exploring the Relationship of Religion, Culture, and Peace in Christian Higher Education,” pp.59-67. 共著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 絵本とことば 創刊号 2017.7発行
 - (ア) 今季の絵本「はらべこあおむし」単著
 - (イ) 仲よし本棚「エリック・カール絵本美術館」単著
 - (ウ) 「加藤映子の留学物語Vol.1」単著
 - (エ) ほんの千夜一夜「クシュラの奇跡」単著
 - (オ) 赤ちゃんのことば「ハルちゃんの軌跡」① 単著
 - (カ) 英語で絵本「はらべこあおむし The Very Hungry Caterpillar」単著
 - (キ) 「大阪女学院こぼればなし」単著

- (2) 絵本とことば 第2号 2017.10発行
 (ア) 今季の絵本「じのないえほん」単著
 (イ) 「読み聞かせで育つ力」単著
 (ウ) 「加藤映子の留学物語Vol.2」単著
 (エ) ほんの千夜一夜「ミッフィーからの贈り物」単著
 (オ) 赤ちゃんとことば「ハルちゃんの軌跡」② 単著
 (カ) 英語で絵本「じのないえほん」単著
 (キ) 「大阪女学院こぼればなし」単著
- (3) 絵本とことば 第3号 2017.12発行
 (ア) 今季の絵本「ぐりとぐらのおきゃくさま」単著
 (イ) 「おとうさんも読み聞かせを」単著
 (ウ) 「加藤映子の留学物語Vol.3」単著
 (エ) ほんの千夜一夜「絵本で子育て」単著
 (オ) 赤ちゃんとことば「ハルちゃんの軌跡」③ 単著
 (カ) 英語で絵本「ぐりとぐらのおきゃくさま A Surprise Visitor」単著
 (キ) 「大阪女学院こぼればなし」単著

IV. 学会発表

- (1) “iPad x English Education”, ADE, ADE APAC Academy 2017, 於：京都 ホテルグランヴィア, 2017年7月25日 Showcase 発表
- (2) “Educational Internship: Community Connection with Local School”, Association of Christian Universities and Colleges in Asia (ACUCA) Management Conference 2017, 於：タイ Payap University, 2017年10月20日
- (3) “Accelerating Education Innovation: Integrating Technology in Higher Education”, Taipei Osaka Higher Education Conference 2017, 於：台湾 Shih Chien University, 2017年10月26日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「子どものことばを育てる絵本の読み聞かせ」, 朝日カルチャーセンター, 於：朝日カルチャーセンター中之島教室, 2017年1月14日
- (2) 「子どものことばを育てる絵本の読み聞かせ」, H・U・N(フン) 企画, 於：大阪 ふんふんブラザ, 2017年1月28日
- (3) 講演(招待)「導かれて」, 大阪女学院中高ホール会, 於：大阪女学院ホールチャペル, 2017年5月18日
- (4) 講義「The Very Hungry Caterpillar はらぺこあおむしで読み解く日米教育事情」, 夢ナビLIVE 2017 大阪会場, 於：インテックス大阪, 2017年6月14日
- (5) Ice Break セッション Tap & Talk, ADE Meet up in Tokyo 2017, ADE, 於：Apple Japan, 2017年11月18日
- (6) キャンプ100周年記念シンポジウム2017 “Active learning, active living”, ファシリテーター, 於：大阪YMCA, 2017年11月23日
- (7) 「The Very Hungry Caterpillar はらぺこあおむしで読み解く日米教育事情」, ADE, ADE Twilight Session, 於：同志社中学校, 2017年12月7日
- (8) 遠隔授業「英語での読み聞かせ：Guri and Gura’s Surprise Visitor」, 於：亀岡市立東別院小学校, 2017年12月18日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 私立大学連盟 学長会議 幹事 (2017年3月まで)
- (2) ADE APAC Advisory Board
- (3) ADE APAC Academy 2017 Advisory Board

- (4) 大阪私立短期大学協会理事(広報担当)
- (5) 日本私立短期大学協会理事
- (6) 私学研修福祉会平成29・30年度私立大学の教育・研究充実に関する研究会(短期大学の部)運営委員
- (7) 大阪YMCA評議員

小松 泰信(こまつ・やすのぶ)〔図書館情報学 情報リテラシー〕

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) ICT技術の進展と組織体制：タブレット端末導入に伴う学習支援組織の役割 私学経営(504) 24-32 2017 単
- (2) タブレット端末を活用した反転授業の評価と分析：過去9年間授業評価の推移比較から 大阪女学院大学紀要(13) 107-120 2017 単

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) BS TV放送「教育におけるICT活用 第9回大学の授業とICT活用」放送大学 ゲスト講演 2017年6月8日

Kramer, Brandon (クレマー・ブランドン)〔Vocabulary Learning, Language Testing, Corpus Linguistics〕

Ⅱ. 学術論文

- (1) “A response to Holster and Lake.” *Language Assessment Quarterly*, 14(1), January 2017, joint.

Ⅳ. 学会発表

- (1) “The word family or the lemma? Evidence for the adoption of the lemma with Japanese EFL university students.” American Association for Applied Linguistics (AAAL), Portland, USA, March 2017, joint.
- (2) “Evaluating word lists used in EFL: Vocabulary test item difficulty indicates optimal sources of reference-corpora and the definition of word-unit.” American Association for Applied Linguistics (AAAL), Portland, USA, March 2017, joint.
- (3) “Assessment basics for the language classroom: A crash course in testing.” IAFOR ACLL, Kobe, Japan, May 2017, individual.

Ⅵ. 学会および公的な機関の委員

- (1) JALT Vocab SIG, 2017 Symposium Coordinator, September 2016-September 2017.

黒澤 満(くろさわ・みつる)〔国際法, 国際関係論〕

I. 著訳書

- (1) 『国際共生と広義の安全保障』大阪女学院大学国際共生研究所叢書4, 東信堂, 203頁, 2017年1月, 編著

Ⅱ. 学術論文

- (1) 「核軍縮と人類の安全保障」黒澤満編『国際共生と広義の安全保障』東信堂, 3-28頁, 単著
- (2) “Nuclear Disarmament and the Security of Humanity,” *Osaka University Law Review*, No.64, pp.25-42, February 2017, individual work
- (3) 「NPT再検討会議後の核軍縮の現状と課題」広島平和研究所『戦後70年を超えて：平和と軍縮に向けた論点と課題』31-48頁, 単著
- (4) 「二〇一七年NPT準備委員会と核軍縮」『阪大法学』第67巻第2号, 365-394頁, 7月31日, 単著
- (5) 「核兵器禁止条約の内容と評価」RECNA Policy Paper 06『核兵器禁止条約採択の意義と課題』, 7-11頁, 8月, 単著

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「初の条約制定へ 3月国連会議」『信濃毎日新聞』, 1月9日
- (2) 「核兵器禁止条約の行方 世界の対立解くのは日本」『中国新聞』, 2月10日
- (3) 「核兵器禁止条約の締結に向けて」『聖教新聞』, 4月12日
- (4) 「平和宣言案作りに初会合 広島で懇談会 核兵器巡る情報共有」『中国新聞』, 4月26日
- (5) 「核禁条約で溝鮮明 NPT準備委員会閉幕」『朝日新聞』, 5月13日
- (6) 「新たな人道的アプローチ」『朝日新聞』, 7月9日
- (7) 「核兵器禁止条約採択 同盟国の加盟壁高く」『中国新聞』, 7月9日
- (8) 「核なき世界への鍵 不参加の日本 署名せず 揺らぐ信頼」『中国新聞』, 7月13日
- (9) 「核兵器禁止条約採択 「人類の安全保障」前面に」『長崎新聞』, 7月15日
- (10) 「核兵器禁止条約採択 「人類の安全保障」前面に」『京都新聞』, 7月22日
- (11) 「非核の願い・下 三度目絶対に阻止 市民の力信じ街頭署名」『読売新聞』, 8月2日
- (12) 「広島・長崎の原爆の日 核廃絶への行動を怠るな」『毎日新聞』, 8月6日
- (13) 「核兵器禁止条約採択 核兵器なき世界実現へ」『毎日新聞』, 8月25日
- (14) 「核軍縮に関する国際情勢(24): 核兵器禁止条約の意義と課題」『平和の風』第24巻, 8-12頁, 9月
- (15) 「核なき世界と平和賞 日本の外交政策転換点に」『朝日新聞』, 10月7日
- (16) 「ノーベル平和賞 被爆者と共に受けた賞」『毎日新聞』, 10月7日
- (17) 「平和への英知の連帯を」『聖教新聞』, 12月4日
- (18) 「核兵器禁止条約の意義と核兵器廃絶の展望」『非核の政府を求める会ニュース』第325号, 2017年12月15日・2018年1月15日合併号
- (19) 「「核の傘から脱却」議論不足」『中国新聞』, 12月29日

Ⅳ. 学会発表

- (1) 「核兵器禁止条約に向けた国際動向」, 日本軍縮学会2017年研究大会, 東京工業大学, 東京, 4月15日
- (2) “Prohibition Treaty Negotiation and NPT Review Process,” Second Meeting of Panels on Peace and Security of Northeast Asia, Ulaanbaatar, Mongolia, 24-25 June, 2017

Ⅴ. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「軍縮と不拡散」, 外務省, 有識者との意見交換会, 外務省, 東京, 1月19日
- (2) 「核軍縮と核不拡散」, ひろしまレポート研究会, 日本国際問題研究所, 東京, 1月24日
- (3) 「核兵器に関する軍縮国際法」, 日弁連, 広島弁護士会との交流会, 広島弁護士会館, 広島, 1月27日
- (4) 「核兵器不拡散条約(NPT)」, 外務省, 有識者との意見交換会, 外務省, 東京, 2月10日
- (5) 「核兵器の法的禁止: 核軍縮をとりまく現状」, 青少年のための核軍縮セミナー, 広島県, 日本国際問題研究所軍縮・不拡散センター, 広島, 2月19日
- (6) 「核兵器禁止条約の締結に向けて」, 核兵器なき世界への連帯展, 大阪府堺市, 3月12日
- (7) 「核兵器禁止条約をめぐる国際社会の動向と展望」, ワークショップ, 核軍縮・核不拡散・核セキュリティを巡る2016年の動向と2017年の展望, 日本国際問題研究所, 東京, 3月24日
- (8) 「核兵器禁止条約の交渉開始」, TIMELINE, TOKYO FM, 3月28日
- (9) 「核兵器禁止条約 日本は不参加を表明」, 高橋みなみの「これから何する」, TOKYO FM, 3月30日
- (10) 「核兵器を巡る国際動向」, 平成29年第1回平和宣言に関する懇談会, 広島市, 4月25日
- (11) 「核軍縮の歴史的展開」, 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科, 京都市, 5月23日
- (12) 「核拡散防止の歴史的展開」, 同志社大学大学院グローバル・スタディーズ研究科, 京都市,

5月30日

- (13) 「核兵器禁止条約」, 外務省, 有識者との意見交換会, 外務省, 東京, 7月6日
- (14) 「核兵器禁止条約をめぐる議論」, 大阪府立狭山高校, 大阪狭山市, 7月11日
- (15) 「核軍縮をめぐる現状と課題」, 広島女学院中学高等学校, 広島市, 7月13日
- (16) 「核兵器廃絶への道」, 国際平和シンポジウム, 広島国際会議場, 広島市, 7月29日
- (17) 「核兵器を巡る世界の現状」, グローバル未来塾inひろしま, ひろしま国際プラザ, 東広島, 8月9日
- (18) 「核兵器禁止条約の意義と課題」, 核兵器なき世界の連帯展, 大阪府豊中市, 8月19日
- (19) 「核軍縮: 核兵器禁止条約の意義と課題」, 日本国際問題研究所軍縮・不拡散促進センター, 東京, 9月12日
- (20) 「核兵器禁止条約の意義と課題」, 大阪女学院大学国際共生研究所, 平和・人権研究会, 大阪市, 10月18日
- (21) 「核兵器廃絶への課題」, 大阪原水協, 国連軍縮週間のつどい, 大阪市, 10月28日
- (22) 「核兵器禁止条約の意義と今後の課題」, 朝日新聞大阪本社, 大阪市, 11月24日
- (23) 「核軍縮: 賢人会議と日本の立場・役割」, TIMELINE, TOKYO FM, 11月27日
- (24) 「核軍縮の現状と課題および市民運動の可能性」, 創価学会学術部シンポジウム, 東京, 12月3日
- (25) 「核兵器禁止条約の意義と核兵器廃絶の展望」, 非核の政府を求める会シンポジウム, 東京, 12月9日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本軍縮学会 理事・監事
- (2) 日本国際問題研究所 軍縮・不拡散促進センター 客員研究員
- (3) 核戦争防止医師会議 (IPPNW) 大阪府支部 顧問
- (4) 国立大学法人長崎大学核兵器廃絶研究センター 顧問
- (5) Panel on Peace and Security in Northeast Asia (PSNA) Member
- (6) ひろしまレポート作成事業 委員
- (7) 広島平和祈念館展示説明文執筆会議 委員
- (8) 日本バグウォッシュ会議諮問会議 委員
- (9) Journal for Peace and Nuclear Disarmament Board Member

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「安全保障貿易管理の法秩序 - 安全保障と国際経済の均衡点の分析と実務提言」, 基礎研究 (A) (一般)

Lyddon, Paul A. (リダン・ポール) [Second Language Acquisition and Teaching]

II. 学術論文

- (1) “Re-mediating postmillennial posters in the Digital Age.” *CALL in a Climate of Change—Short Papers from EUROCALL 2017*, Dec.2017, joint work
- (2) “Discovering language properties through corpus-based dictionary data analysis.” *Vocabulary Learning and Instruction*, vol.6, no.2.Dec.2017, individual work

IV. 学会発表

- (1) “The resistance of moraic nasals to rendaku inhibitors.” Phonology Festa 12, Kyoto, Mar.8, 2017
- (2) “Techniques for promoting greater learner engagement in oral communication classes.” Osaka JALT Back to School 2017, Osaka, May 27, 2017
- (3) “Back to the future: Re-mediating postmillennial posters in the digital age.” EUROCALL, Southampton, UK, Aug.25, 2017

- (4) "It's the end of the poster as we know it (and we feel fine)." EUROCALL, Southampton, UK, Aug. 25, 2017
- (5) "Discovering language properties through corpus-based dictionary data analysis." 2017 JALT Vocabulary SIG Symposium, Osaka, Sept. 9, 2017

馬淵 仁(まぶち・ひとし) [異文化理解論, 多文化共生論, 教育社会学]

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 書評: 鈴木京子著『教員の異文化体験-異文化適応・人間的成長・教員としての成長-』風馬書房(418頁)『異文化間教育』45号, 異文化間教育学, (pp.136-139), 2017年3月31日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「グローバル時代における多文化教育を問う-豪・加・米・英の現況から示唆されるもの」, 大阪女学院大学国際共生研究所第59回平和・人権研究会, 於: 大阪女学院大学, 2017年5月31日
- (2) 講演「日本における異文化間教育と多文化教育の問題と展望」, 北海道大学国際教育センター2017年度研修事業シンポジウム: 多文化教育・異文化理解教育のフレームを学ぶ, 於: 北海道大学国際連携機構, 2017年10月28日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) オセアニア教育学会 会長(2017年度)
- (2) 異文化化間教育学会 理事 研究委員会副委員長(2017年度)
- (3) オーストラリア学会 理事 紀要編集担当(2017年度)

前田 美子(まえだ・みつこ) [比較・国際教育, 開発教育, 国際協力, 理科教育, 教育方法, ファシリテーション研究]

II. 学術論文

- (1) 「ケニアの理科授業における問題解決活動の課題: 学習者の関与度の分析から」, 『国際教育協力研究』, 1-9頁, 2017年3月, 共著

Ⅲ. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「研究活動報告」, 『大阪女学院大学国際共生研究所通信』第11号, 2017年10月, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「教育汚職の歴史的変遷-カンボジアを事例として-」, 日本比較教育学会第53回大会, 於: 東京大学, 2017年6月24日
- (2) "Teacher's involvement in dishonest academic practices - with special reference to Cambodian teachers", The 61th World Assembly of International Council on Education for Teaching, Masaryk University, Brno, Czech Republic, June 28, 2017.
- (3) "What Constitutes Effective Mathematics Teaching? A Comparative Study of Teachers' Perceptions", The 61th World Assembly of International Council on Education for Teaching, Masaryk University, Brno, Czech Republic, June 28, 2017.
- (4) 「国際協力の実践と研究を往還する」第8回関西OV教員研究会(第36回兵庫OV教員研究会), 於: 大阪市中央区民センター, 2017年8月20日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 企画・ファシリテーションアドバイザー: グローバルイベント「世界一大きな授業」, 大阪女学院大学国際共生研究所ファシリテーション・メディエーション研究会, 於: 大阪女学院大学, 2017年5月23日
- (2) 企画・アドバイザー: グローバルキャンペーン「レッドカードアクション」, 於: 大阪女学院大学, 2017年6月~7月

- (3) 企画・ファシリテーション：「世界の多様性と格差の問題について学ぶワークショップ」, 大阪女学院大学国際共生研究所ファシリテーション・メディエーション研究会, 於：大阪女学院大学, 2017年6月2日
- (4) 企画：「青年海外協力隊から開発教育のファシリテーターへ」, 大阪女学院大学国際共生研究所ファシリテーション・メディエーション研究会, 於：大阪女学院大学, 2017年11月16日
- (5) 企画：「ビジネスを通じて社会貢献 2017」, 大阪女学院大学国際共生研究所ファシリテーション・メディエーション研究会, 於：大阪女学院大学, 2017年11月30日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 鳴門教育大学教員教育国際協力センター共同研究員
- (2) Editorial board member of the International Journal of Comparative Education and Development (IJCED)

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「開発途上国の学業不正に関する研究：大学生のライフストーリーから」, 科学研究費補助金 基盤研究C, 研究代表者, 平成29～31年度
- (2) 「国際教育開発としての日本型教育の輸出：教員養成カリキュラムを事例に」, 科学研究費補助金 基盤研究C, 研究分担者, 平成29～31年度

McLean, Stuart (マクリーン・スチュアート) [TESOL, Applied Linguistics, Testing, Vocabulary]

II. 学術論文

- (1) McLean, S., & Rouault, G. (2017). The effectiveness and efficiency of extensive reading at developing reading rates. *System*, 70, 92-106.
- (2) McLean, S. (2017). Evidence for the Adoption of the Flemma as an Appropriate Word Counting Unit. *Applied Linguistics*, Early Online Access.
- (3) Stewart, J., McLean, S., & Kramer, B. (2017). A Response to Holster and Lake Regarding Guessing and the Rasch Model. *Language Assessment Quarterly*, 14, 69-74.

IV. 学会発表

- (1) American Association for Applied Linguistics (AAAL) 2017 Conference in Portland, Oregon, Japan. 2017年3月.
- (2) McLean, S. The importance of technical and not academic vocabulary to medical students. Aino University. 2017年12月.
- (3) McLean, S. Making an empirical research based vocabulary program: Not easy, but effective. Japan Association of College English Teachers (JACET), Kansai Chapter. 2017年11月.
- (4) McLean, S. & Goldberg, P. Developing the cognitive processes necessary for fluent reading through Extensive Reading and Xreading. Japan Association of Language Teacher (JALT) Kyoto Chapter. 2017年10月.

中垣 芳隆 (なかがき・よしたか) [教員養成]

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 大阪府立北野高等学校 Super Global Highschool 運営指導委員

中西 美和 (なかにし・みわ) [臨床心理学]

II. 学術論文

- (1) 「Tグループを用いたリーダーシップトレーニング-参加学生は何を掴んだか-」, 『大阪女学院大学紀要』 第13号, pp.17-30, 2017年3月1日発行, 単著
- (2) 「イントロジェクションのあり方に気づく-“受け継ぐ”という実体験と, “にんげん掃除機”の

エクササイズの実施を通して-」, 『臨床ゲシュタルト療法研究』 第2号, pp.17-29, 2017年12月16日発行, 単著

IV. 学会発表

- (1) 「自分の在り方に触れるためのエクササイズの実践例-イントロジェクションを中心に-」, 日本臨床ゲシュタルト療法学会第7回大会, 於: 大阪女学院大学, 開催日 2017年3月4日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「カウンセリング概論」, 関西いのちの電話 第53期電話相談ボランティア養成講座, 於: 関西いのちの電話(博愛社5階), 2017年5月17日, 講師
- (2) 「人間関係で味わう嫌な感情を分析する〜ラケット感情を引きずらないために〜」, NPO法人日本交流分析協会関西支部第21回支部大会, 於: エルおおさか, 2017年6月4日, 基調講演講師
- (3) 「気づきを深める体験的心理療法-ゲシュタルト療法入門-」, 日本臨床ゲシュタルト療法学会主催, 於: 大阪女学院大学, 2017年10月21日, ワークショップセラピスト

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 日本臨床ゲシュタルト療法学会, 常任理事, 2016年~2018年

奥本 京子(おくもと・きょうこ) [平和学・紛争転換学・非暴力介入論・平和ワークにおける芸術アプローチ・ファシリテーション論・メディエーション論・NGO論]

I. 著訳書

- (1) 「安全保障アプローチから紛争転換を軸とした平和アプローチへの移行」, (黒澤満)『国際共生と広義の安全保障』国際共生研究所叢書4, 東信堂, (pp.49-75), 2017年1月31日, 論文単著
- (2) 「平和講演『平和を創る』」, (関西学院大学神学部)『関西学院大学神学部ブックレット9 平和の神との歩み: 1945-2015年 第50回神学セミナー』キリスト新聞社, (pp.37-68), 2017年3月31日, 報告論文単著

II. 学術論文

- (1) 「The Arts-based Approach in Peace Work: Dynamic Peace and Dynamic Art」, Featured Research Paper, 『TRANSCEND Media Service』2017年5月8日, 論文単著(『The Arts-based Approach in Peace Work: Dynamic Peace and Dynamic Art』, (『濱下昌宏先生退職記念論集』編集委員会)『濱下昌宏先生退職記念論集: 日韓美学研究会と歩んで』神戸国際大学 魚住研究室, (pp. 84-88), 2016年12月30日, 論文単著)

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「東北アジアにおける平和創造のために: 市民社会が二元論を乗り越える(トランセンドする)」, 『法学館憲法研究所ホームページ「今週の一言」コラム』2016年12月5~11日, 論考単著
- (2) 「シリーズ 学問はおもしろい 平和学 平和創造の具体策提案 紛争への免疫力高める」, 『しんぶん赤旗』, 日刊第24041号, 第8面, 2017年12月4日, 取材記事
- (3) 「芸術と平和教育」, 『平和教育シリーズ No.7 平和教育学事典』平和教育学研究会 編集委員会, 京都教育大学教育社会学研究室 発行, 2017年3月18日, 項目単著
- (4) 「東アジアにおける平和の新しいビジョン: 中国・日本の平和の対話」ヨハン・ガルトゥング原著, 『トランセンド研究-平和的手段による紛争の転換-』第15巻第1号, pp.50-53, 2017年10月, 論文翻訳(単訳)

IV. 学会発表

- (1) 「平和アプローチによる和解の過程と手法についての一試案: ホーポノポノとサモアン・サークルプロセスを統合したNARPIでの実践から/A Proposal on the Process and the Method for Reconciliation by Peace Approach: From a practice at NARPI integrating Ho'o Pono Pono and Samoan Circle Process」, 「東アジア平和の新たなビジョン」学術シンポジウム 並びに第2回日

中両国平和学者対話会, 主催: 南京大虐殺史及び国際平和研究院, 日本平和学会, チャハル学会, 南京大学平和学研究所, 於: 中国, 南京, 漢府飯店, 紫金庁, 2017年2月23日

- (2) 「平和紛争学の基礎概念と平和教育の関係性」, 関西学院大学キリスト教と文化研究センター(RCC) 研究プロジェクト「キリスト教主義教育の展開～キリスト教主義学校における平和教育のあり方をめぐって～」, 於: 関西学院大学関学会館1F輝きの間, 2017年10月6日

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「ようこそ平和への権利へ 平和への権利がやってきた! -わたしたちができること-」, 共催: RIICC/平和への権利国際キャンペーン日本実行委員会, 協賛: 「憲法9条にノーベル平和賞を」実行委員会/日本友和会, 於: 大阪女学院大学会議室I, 2017年1月20日
- (2) 「『グローバル教育』からYMCAの“国際協力”について考えよう～知る・考える・分かち合う～」, 第17回(2016年度)中日本地区YMCAグローバル教育研修会, 日本YMCA同盟, 於: 六甲山YMCA, 2017年2月11～12日
- (3) “From Security Approach to Peace Approach: for our region, Northeast Asia”, Gangjeong Peace School, 於: Gangjeong Peace Center, Gangjeong Village, Seogwipo City, Jeju Island, South Korea, 2017年2月17日
- (4) “LUKASA Workshop: for our region, Northeast Asia”, Gangjeong Peace School, St. Francis Peace Center, Gangjeong Village, Seogwipo City, Jeju Island, South Korea, 2017年2月18日
- (5) 「平和教育ワークショップを創るためのワークショップ: 長崎を新鮮な継承・対話を生み出す場にするために」, 長崎大学 中村桂子, 核兵器廃絶長崎連絡協議会, 於: 長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA) 1階会議室, 2017年3月3日
- (6) 「アニメを使った平和学: 紛争解決ワークショップ」, 高大連携模擬授業, 於: 鳴尾高校, 2017年3月8日
- (7) 「アニメを使った平和学: 紛争解決ワークショップ」, 高大連携模擬授業, 於: 西宮今津高校, 2017年3月9日
- (8) 「平和紛争学の研究と実践」, 復幸実学共働学習会, 樹福書院, (非営利) 一般財団法人京都フォーラム, 於: 大阪駅前第三ビル24階, 樹福書院会議室, 2017年3月22日
- (9) 「紛争転換/メディアエーション・トレーニング」, 平和文化村(Peace Culture Village), 於: 広島県三次市甲奴町, 平和文化村(Peace Culture Village), 2017年3月29～30日
- (10) 「Arts Approaches to Community-Based Peacebuilding」, Mindanao Peacebuilding Institute Summer Training, 於: フィリピン・ミンダナオ・ダヴァオにおけるMPI, Mergrande Ocean Resort, 2017年5月22～26日
- (11) 「紛争転換ワークショップ」, 同志社大学グローバル地域文化学部, グローバル地域文化導入セミナー, 於: 同志社大学グローバル地域文化学部, 2017年6月1日
- (12) 「インデ島へようこそ: ロールプレイを通じて考える, 植民地・先住民・同化, そして平和への権利」, 部会3 ワークショップ(平和教育プロジェクト委員会企画), 日本平和学会, 於: 北海道大学, 2017年7月1日
- (13) 「Conflict and Peace Framework」, NARPI Summer Training, 於: 沖縄・名護青少年の家, 2017年8月7～11日
- (14) 「Nonviolent Response to Militarisation」, NARPI Summer Training, 於: 沖縄・名護青少年の家, 2016年8月15～19日
- (15) 「アニメを使った平和学: <対立>をどうやって解決するか」, 大阪女学院大学・短期大学オープンキャンパス, 2017年9月3日
- (16) 「芸術文化原論9, 特別講義: ガルトゥング平和学『紛争を解決するためのワークショップ』」, 京都造形芸術大学大学院芸術研究科芸術専攻, 於: 京都造形芸術大学人間館NA206教室, 2017年10月5日

- (17) 「アニメを使った平和学：紛争解決ワークショップ」, 高大連携模擬授業, 於：大阪薫英女学院高校, 2017年11月8日
- (18) 「平和紛争学：暴力のない世界をめざして」, にんげん研究会オープンセミナー, 大阪私立学校人権教育研究会にんげん研究委員会, 於：大阪女学院大学会議室1, 2017年12月12日
- (19) 「平和創造への歩み」, 浄土真宗本願寺派・門信徒教化部, 於：聞法会館3F 2017年12月12日
- (20) 「憎しみを愛に変える方法を探る連続ワークVol.1 複数形から単数形へ～フレームを変えることからはじめてみる」, ポジティブキャンペーンオキナワ(ボキナワ), 於：沖縄・那覇・ひめゆりピースホール, 2017年12月23日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 国際トランセンド 認証トレーナー 2000年11月26日～現在に至る
- (2) 同上 東北アジア地域コンピーナー 2006年～現在に至る
- (3) トランセンド(平和的手段による紛争転換)研究会 理事 2017年1月～現在に至る
- (4) 同上 平和と芸術委員会委員長 2010年12月～現在に至る
- (5) 同上 地域委員会 NARPIプロジェクト・リーダー 2010年12月～現在に至る
- (6) 非暴力平和隊・日本 理事 2003年1月31日～現在に至る
- (7) 日本平和学会 平和と芸術分科会 副責任者 2012年2月～現在に至る
- (8) NARPI (Northeast Asia Peace Research Institute) 運営委員会委員 2009年～, 委員長 2014年～現在に至る
- (9) ACTION Asia Leader 2010年11月～現在に至る
- (10) 京都造形芸術大学・東北芸術工科大学 共同研究機関「文明哲学研究所」 客員教授 2013年4月～現在に至る
- (11) Peace News Japan 理事 2013年6月～現在に至る
- (12) IPRA, Art and Peace Commission, co-convener 2014年8月～現在に至る
- (13) 神戸家庭裁判所(本庁) 家事調停委員 2014年10月1日～現在に至る
- (14) 大阪女学院大学国際共生研究所(RIICC) プロジェクト3「ファシリテーション・メディアエーション研究」設立者・代表 2014年10月8日～現在に至る
- (15) The Charhar Institute (察哈尔学会) 高級研究員 2015年12月～現在に至る
- (16) 日本平和学会第22期理事 2016年1月～2017年12月
- (17) 日本平和学会第22期事務局長 2016年1月～2017年12月
- (18) APPRA, International Advisor for 2017 Malaysia Conference 2017年2月～2017年8月
- (19) 関西学院大学キリスト教と文化研究センター(RCC) 研究員 2017年4月～現在に至る
- (20) 南京大屠殺史と国際和平研究院(the Institute of Nanjing Massacre and International Peace Studies, INMIPS) Special Fellow 2017年10月～現在に至る

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「原発災害後の人間関係の葛藤への紛争解決学による変容支援研究」科学研究費基盤研究(C) 平成27～29年

大塚 朝美(おおつか・ともみ) [英語音声教育, TESOL]

I. 著訳書

- (1) 「第1部 第7章 Grammar Translation Methodとは?」(pp.77-87), 「第1部 第9章 言語材料とは(共同執筆)」(pp.99-104), 「第1部 第12章 聞くこと・話すことをどう指導するか」(pp.133-143), 「第1部 第13章 読むこと・書くことをどう指導するか」(pp.144-154), (若本夏美, 今井由美子, 大塚朝美, 杉森直樹)『国際語としての英語：進化する英語科教育法』松柏社, 2017年12月, 共著

II. 学術論文

- (1) 「学生による発音自己評価の検証：通年の指導から得られる学生の評価力」『大阪女学院短期大学紀要』第46号, 2017年3月(共著), pp.1-14.
- (2) 「英語科教職課程履修生による発音練習への自主的な取り組みと課題」『同志社女子大学総合文化研究所紀要』第34巻, 2017年7月(共著), pp.88-93.

IV. 学会発表

- (1) 「EFL環境におけるスピーキング力向上－語彙学習と反転授業の視点からの提案－」, 全国英語教育学会(JASELE)第43回島根研究大会, 於：島根大学, 2017年8月19日(共同)
- (2) 「学習者の自己評価と教員評価の比較からみる評価の難易度－音素と音のつながりについて－」, 全国英語教育学会(JASELE)第43回島根研究大会, 於：島根大学, 2017年8月20日(単独)

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) “Teaching English phonetics and pronunciation at Osaka Jogakuin College and Osaka Jogakuin University” Back to School 2017 Mini-Conference (JALT Osaka Chapter), May 27, 2017.
- (2) 「『英語らしい発音』とは？世界で通用する英語の発音を目指そう！」, 大阪女学院大学・短期大学 オープンキャンパス, 2017年6月4日
- (3) 「『英語らしい発音』とは？世界で通用する英語の発音を目指そう！」, 大阪女学院大学・短期大学 オープンキャンパス, 2017年7月16日
- (4) 「『英語らしい発音』とは？世界で通用する英語の発音を目指そう！」, 大阪女学院大学・短期大学 オープンキャンパス, 2017年8月27日

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 外国語教育メディア学会(LET) 運営委員 2012年4月～現在

VII. 科学研究費等の公的な研究補助を受けた研究

- (1) 「英語オーラルコミュニケーション能力の伸長の可能性－語彙学習方略と反転授業に着目して」文部科学省科学研究費補助金 基盤研究(C) 研究分担者 2016年4月～2019年3月

朴 賢淑(パク・ヒヨンス)〔神学(キリスト教学), 宣教学(東アジア, ラテンアメリカ), 公共の哲学〕

II. 学術論文

- (1) 「J.P.キャンベルの東アジア宣教についての一考察」『神学研究』(第64号), 関西学院大学神学研究會, 2017年3月発行.(共著)

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「(大学・短期大学)秋の特別礼拝」, 『ハイライツ』(184号), 2017年12月.(共著)
- (2) 「キリスト教教育 2017」『Wilmina Voice』, 2017年3月.(共著)

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「韓半島統一と東アジア平和のための日韓協力法案」(社会・文化分野), 韓日統一学術会議, 八尾市民会館, 2017年10月17日.

関根 聡(せきね・あきら)〔社会学, 家族社会学, 福祉社会学, ジェンダー論〕

II. 学術論文

- (1) 「女性大学生における性役割意識 3」, 『吉備国際大学大学院社会学研究科論叢18号』, 2017年3月1日, 単著

V. その他の発表(シンポジウム・講演・放送等)

- (1) 「性の多様性を尊重できる教育環境をめざして」平成29年度 校園長人権教育研修会, 八尾市教育委員会, 於：八尾市立教育サポートセンター, 2017年7月26日.
- (2) 「高齢者介護をめぐる家族危機」, 姫路市交流振興局人権啓発センター, 於：生涯学習大学校,

2017年8月3日.

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) 八尾市男女共同参画審議会 副会長 2010年9月～2018年11月
- (2) 阪南市男女共同参画推進審議会 副会長 2014年7月～2018年3月
- (3) 大阪市男女共同参画推進にかかる市民向け啓発・研修事業実施事業者検討会議(平成29年度男女共同参画普及啓発事業分) 座長 2017年5月
- (4) 大阪市 大阪市立男女共同参画センター西部館及び大阪市立こども文化センター管理運営評価有識者会議 委員 2017年7月～

Swenson, Tamara (スウェンソン・タマラ) [Media and communications study, language education]

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) JALT Journal, Editorial Advisory Board member, Jan.2017 to Dec.2017
- (2) JALT 2016 Conference Proceedings, Editorial Advisory Board member, Jan.2017 to April 2017
- (3) JALT 2017 Conference Proposal Reading Committee member, Jan.2017 to April 2017

上野 育子 (うえの・いくこ) [第二言語習得, 言語教師認知, 教授法におけるピリーフ]

II. 学術論文

- (1) 「授業内英語使用に対する日本人英語教師と大学生のピリーフ：混合研究法による比較調査」, 『大阪女学院大学紀要』, 14号, 2018年3月, 単著

III. その他の著作(研究ノート・報告書・雑誌・新聞・ニュースレター等)

- (1) 「言語教師認知研究の動向」書籍紹介, 『大阪女学院大学国際共生研究所通信』第11号, 2017年11月, 単著
- (2) その他 査読論文3本

IV. 学会発表

- (1) 「Teachers' and Learners' Beliefs About the "ALL ENGLISH" Class in the Japanese EFL Context」, JACET国際大会, 於：青山学院大学, 08/30/2017
- (2) 「“オールイングリッシュ”授業に対する日本人英語教師と大学生のピリーフ：混合研究法による考察」, JACET関西支部春季大会, 於：甲南大学, 06/17/2017

VI. 学会および公的な機関の委員

- (1) JACET言語教師認知研究会委員, 言語教師認知研究集録研究関連文献リスト担当, 2017年度4月～
- (2) JACET 会員
- (3) 外国語教育メディア学会会員
- (4) ことばの科学学会会員